

## 授業科目等の概要

(服飾専門課程 服装科1年) 2019年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			服装造形論 I	・服飾造形基礎知識の習得（縫合の基礎、作図の基礎理論、体型観察） ・各アイテム製作を通し服作りの技術と理論の習得（服の構造、デザイン表現、作図理論と方法、仮縫い補正方法、素材扱い、縫製方法）	1・通年	180	6	○			○			○	
○			服装造形デザイン I	・バザー作品製作を通しボランティア精神の育成と既製服としての縫製方法（刺繍法）、検品、販売までの流れを学ぶ	1・通年	60	2			○	○			○	
○			服装造形パターンメイキング I	・立体裁断基礎知識の習得（ボディ・布準備、ドレーピング・マーキング・ドラフティング） 1. 衣服製作のための用具 2. 市場調査 3. 衣服製作のための人体と計測 4. 縫製の基礎 5. 体型研究（パターン製作の基礎）	1・通年	150	5			○	○			○	
○			服装造形ソーイング I	6. 一重スカート 7. バザー作品 8. シャツブラウス 9. PM検定対策 10. スカート（総裏仕立て）	1・通年	240	8			○	○			○	
○			服装造形ドレーピング基礎	11. ジャケット 12. ワンピースドレス 13. 立体裁断の基礎 14. 自由実習・観劇	1・後期	30	1			○	○			○	
○			自由研究	・服装造形に関わるテーマに基づき各自の目標に合わせ研究する ・個々の能力に合わせ復習・応用することにより、既習細目におけるレベルの向上と知識・技術の応用発展を目指す ・発表会（展示）を行うことにより、プレゼンテーション能力を養う	1・通年	30	1			○	○			○	

## 授業科目等の概要

(服飾専門課程 服装科1年) 2019年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			服飾デザイン論Ⅰ	服飾デザインにおける色彩、形態、コンポジションについての講義及び演習を通して基礎的な知識と技術を身につけ、創造力、分析力を養うことを目標とする。	1・通年	60	2	○			○		○		
○			ファッションデザイン画Ⅰ	ファッションデザイン画における基礎的な技術と、オリジナルデザインの表現方法の基本を習得する。	1・通年	60	2			○	○		○		
○			服飾手芸	服飾手芸全般における基礎知識及び技術を基にして応用発展できるように、素材・テクニック・色の組み合わせによってクリエイティブな力を養うことを目標とする。	1・通年	60	2			○	○			○	
○			西洋服装史	ファッション史の通史的、概論的講義。古代から現代に至る西洋を中心とした歴史の流れと服装の推移発展を理解させる。特にヨーロッパの服装の変化と特性に重点を置き、現代ファッションの生成を理解し、学生が今後ファッション業界でその知識を活かせるようにする。	1・通年	60	2	○			○			○	
○			アパレル素材論Ⅰ	アパレルの主素材である布地の種類と性能の基本を理解させ、応用力を養わせることを教育目標とする。布地を理解し使用するには、その構成要因となる繊維、糸、織、編、レース、染色、加工などの各々の種類、性質などを複合的に捉える必要があるため、繊維から系統的に授業を展開する。講義に演習・実験・実習を加えることで理解を促し、実践的なものにする。レベルは、関連授業及び卒業後に生かすための礎を得られる設定である。	1・通年	60	2	○			○		○		

○			クロッキー	<p>様々なものの見方を通じ、ものを見て描く事・表現につながるような描写とその楽しさを再認識する事とあわせ、個性を伸ばす為の基本的描写能力・表現能力の習得を目的とする。</p>	1 後期	30	1				○	○				○
---	--	--	-------	--	---------	----	---	--	--	--	---	---	--	--	--	---

## 授業科目等の概要

(服飾専門課程 服装科1年) 2019年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
		○	英会話(自由選択)	英語の基本的な文法の復習と確認をするだけでなく、英語を使ってコミュニケーションが出来るようになる事を最終目標にすえた英語に親しむ実践的なコース運営を目指す。グループ、ペア・ワークを中心に会話の模擬体験を通して、コミュニケーションには何が必要かを体感してもらいたい。ファッションを専攻している学生なのでファッションに関する語彙も導入する。	1・後期	30	1	○			○			○		
○			就職対策講座Ⅰ	・社会人と学生の違いを認識し、将来の方向性を決めるきっかけを作る ・職業人に求められる「人間力」の向上を促し、実践教育を通して「就職力」の強化につなげる	1・後期	30	1	○			○				○	
○			校外研修Ⅰ	・都会から離れた「山荘」における団体の生活の体験 ・野外活動、体育活動他諸活動を通じ、指導力や協調の精神を養い、コミュニケーション能力の向上を目指す ・個人相互およびクラス間・学年間の親睦を深める	1・前期	30	1			○	○	○				
○			特別講義Ⅰ	・ファッション業界の各分野において幅広い知識と技術を習得すると共に、各自の進路(進学・就職)を考える動機付けを目標とする ・レギュラー授業において包括できない部分の専門関連分野の知識を習得する	1・通年	30	1	○			○				○	
		○	コラボレーションa	・ファッション産業界における各企業とのかかわりを持つことにより、企業での実務を知り就職への動機付けを目的とする。また、課外活動(コンテスト活動など)への積極的参加を推進することにより各自の専門性を強化する。	1・通年	30	1			○	○	○			○	
学年合計				15科目												1,110単位時間(37単位)

## 授業科目等の概要

(服飾専門課程 服装科2年) 2019年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任			
○			服装造形 論 II	1年で学んだ 基本を 復習しながら、裏無しの作品から厚物・薄物作品までパターンから縫製まで学習する。立体裁断もボトムからトップスまで、テクニックからパターンメイキングまで学習する。 1. 工業用パターンメイキング I 工業用ボディでのドレーピング (タイトスカート)	2・通年	90	3	○			○			○			
○			服装造形 デザイン II	2. パターン展開のスカート 各自のデザインを スローパー展開でパターンメイキング半身トフル型出し、実物制作 3. 立体裁断 I スカート ヌードボディでのドレーピング	2・通年	90	3				○	○			○		
○			服装造形 パターンメイキング II	4. 一重ジャケット (ボトム) デザイン・パターン・実物製作・ポートフォリオ 5. デザインパンツ デザイン・パターン・実物製作・レポート	2・通年	120	4				○	○				○	
○			服装造形 ソーイング II	6. 子供服 (バザー作品) デザイン・パターン・実物製作・ノート提出 7. ウィンターコート デザイン・パターン・実物製作・レポート	2・通年	120	4				○	○				○	
○			服装造形 ドレーピング I	8. 立体裁断 II 原型～胸ぐせバリエーション ヌードボディでのドレーピングからパターンへ 9. 立体裁断 II ブラウス・衿 ドレーピング実習 (文化ヌードボディ) 10. 卒業制作 デザイン・パターン・実物製作・レポート・ポートフォリオ	2・通年	120	4				○	○				○	

○			11. グレーディング 説明・実習 12. 工業用パターンメイキングⅡ 工業用ボディでのドレーピング（ジャケット）	2 ・ 後 期	30	1				○	○				○
---	--	--	---	------------------	----	---	--	--	--	---	---	--	--	--	---

## 授業科目等の概要

(服飾専門課程 服装科2年) 2019年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			量産技術実習Ⅰ	シャツの製造実習（一人が全行程を賄う“丸縫い作業”）を通して、シャツ生産指示書（仕様書、指図書、工程分析表、作業標準書）の役割（生産時間の短縮や品質の均一化や作業者の安全等）について理解を深めることを目標とする。また、工業生産機器の取扱いと安全な基本操作についても学習し、限られた授業時間（納期：D）の中で、出来栄え（品質：Q）にバラツキが生じないように、量産的な考え方の重要性も認識させる。	2・前期	30	1			○	○			○	
○			生産管理概論	アパレル産業界における分業について、作品と製品の違いといったアパレル生産に関する基本的な知識の習得を目的とする。縫製工場とアパレルメーカーの双方から生産活動を学ぶことにより製品が仕上がるまでのプロセスを学習する。また、生産指示書類（縫製仕様書や工程分析表等）の作成を通じてQ（品質）C（原価）D（納期）の実現についての理解を深める。	2・前期	30	1	○			○		○		
○			服飾デザイン論Ⅱ	1年次『服飾デザイン論Ⅰ』で習得した色彩・形態の基礎をベースに、ファッションデザインにおけるカラーコーディネーションの応用、イメージ分析、デザイン展開、ビジュアル表現についてより実践的に学習する。	2・前期	30	1	○			○		○		
○			ファッションデザイン画Ⅱ	ファッションデザイン画は、衣服デザインや構造線を的確に描くことが出来るように表現力を伸ばす。各種画材を使用し、特徴のある素材表現の手法を習得する。学生個人の感性を尊重しオリジナルファッションデザイン画表現を目標とする。	2・通年	60	2			○	○		○		

○			アパレル品質論	<p>テキスタイルやアパレルの企画、製造、販売における品質管理に関する知識を習得し、「関連する法律を理解し遵守する」「お客様の要求品質を満たす」ための活動ができることを目標とする。講義と演習により理解を深める。</p> <p>①アパレルと品質管理 ②品質評価試験（実用性試験）と評価</p> <p>③アパレルの品質表示と法規制</p> <p>④アパレル製品の取り扱い</p> <p>⑤アパレル製品の保証と製品事故</p>	2・後期	30	1	○			○					○
---	--	--	---------	--	------	----	---	---	--	--	---	--	--	--	--	---



## 授業科目等の概要

(服飾専門課程 服装科2年) 2019年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			服装解剖学	解剖学的な人体の構造を衣服パターンと関連づけながら理解させ、美的で機能的な衣服製作に必要な人体（骨格）に関する基礎知識を学習させる。次に人体を外観から観察し、形態やプロポーションを認識させる。	2・前期	30	1	○		△	○		○		
○			ファッションビジネス概論	現代ファッション産業における必要とされる基礎的ビジネス概要を、アパレル社会側見た現状、又は問題点などを講義。 今後、現代アパレル社会が求める人材、必要とされる基礎知識・基礎能力を高める。	2・後期	30	1	○			○			○	○
○			グラフィックワーク基礎	(Illustrator/Photoshop) の基本操作を習得し、簡単な製品図の描画やマップ等の書類が作成できるスキルを身につける。	2・通年	60	2				○	○		○	
	○		服飾手芸（選択科目）	1年時に習得した服飾手芸全般における基礎知識を基に更により高度な技術を習得してクリエイティブかつオリジナルな創作力を身につけることを目標とする。	2・半期	30	1				○	○		○	
	○		ニットイング（選択科目）	ハンドニットの一般知識（素材・道具・編み地）について学ぶ。 棒針、鉤針の編み方の理解と作品作りの知識を習得する。 ファッションアイテムとしてコーディネートに活用できるニット小物を製作する。	2・半期	30	1				○	○		○	

	○		<p>絵画・クロッキー（選択科目）</p>	<p>対象を素早く描くことによりモデルのプロポーションや動き、服の変化などを大きくとらえ、表現する力の習得を目的にする。上級学年ということで「デッサン」的なものも題材に含め、絵画の様々な技法を紹介し体験させるようにする。</p>	2・半期	30	1				○	○		○		
	○		<p>CAD基礎（選択科目）</p>	<p>アパレルCADを利用したパターンメイキングに対する基本的な理解を深めることを目標とする。平面作図に始まり、スキャナ入力、有り型展開、工業用パターンメイキング、マーキング等を履修する。基礎的部分の履修ではあるが、最小限の機能を活用し、最大の効果が得られるレベル設定とする。</p>	2・半期	30	1				○	○		○		

## 授業科目等の概要

(服飾専門課程 服装科2年) 2019年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○		英会話（選択科目）	基本的な文法を学習したレベルを想定し、英語をツールにしたコミュニケーションをとれるようにさらに英語の運用力を高めることを目標とする。グループ、ペア・ワークを中心に会話の模擬体験を通してコミュニケーションには何が必要かを体感できることを目指す。ファッションを専攻している学生なのでファッションに関する語彙なども導入する。	2・半期	30	1			○	○			○	
	○		販売実務（選択科目）	・販売員の重要性、必要性を理解する ・接客販売の流れとそのポイントを理解する ・販売としての立ち居振る舞い、また接客の楽しさ、難しさをロールプレイングを通して学ぶ	2・半期	30	1			○	○			○	
	○		アクセサリー（選択科目）	アクセサリーの様々な素材や基本的なパーツや道具の使い方、テクニックを習得することで、個々の目的に合わせたアクセサリーを製作し、発想力を養う	2・半期	30	1			○	○			○	
	○		帽子（選択科目）	帽子の一般常識と帽子に対する知識を深め、服飾に於ける帽子の位置づけを理解させる。 トータルイメージを表現する力を養い、作品制作を通して帽子のイメージや服とのバランス感覚などを把握。	2・半期	30	1			○	○			○	
	○		染色（選択科目）	染色に関する基礎的な知識と技法を、各実習を通して習得し、それをもとにアパレル制作に応用展開できる能力を養う。さらに、染色、加工の視点により認識させることを目標とする。	2・半期	30	1			○	○			○	

	○		ヘア・メイク (選択科目)	ファッションとヘアメイクのトータルコーディネートを意識し、よりファッションを活かすメイク知識と技術を身に付ける。更に自分自身の見せ方、製作した作品の見せ方などさまざまな表現方法を学ぶことを目標とする。	2・半期	30	1				○	○		○		
	○		コンテスト画	コンテストに応募することにより想像力を向上させ、プレゼンテーション能力も向上させる。 コンテスト用の作画テクニックを指導し表現能力を高める。	2・半期	30	1				○	○		○		

## 授業科目等の概要

(服飾専門課程 服装科2年) 2019年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			就職対策講座Ⅱ	就職にそなえ社会人として人間力、コミュニケーション能力を向上させることと、就職対策の実施を行っている講義と実習をすることにより、実践的な力を養うことを目標としている。	2・通年	30	1	○			○			○		
		○	コラボレーションb	・外部団体、企業とのコラボレーション活動に個人又はグループで参加し、知識や技術の向上とともに社会人としてのキャリアアップを図る。 ・学生は自己の可能性を発見し、仕事の進め方やプレゼンテーション方法を学び、人間力、コミュニケーション能力を身につける。	2・通年	30	1			○		○			○	○
○			校外研修Ⅱ	1. 日本の歴史的伝統に優れた美術・文化財にふれることにより、感性や美意識を磨く 2. 団体行動により、協調性・社会性・人間性を向上させると共に、クラスメイトとの交流を育む。 3. 事前に古美術の予備講座を受けることで、現地でより一層見聞を深める。	2・後期	30	1	○		△		○			○	
○			特別講義Ⅱ	1. 服飾関連の幅広い分野の専門家による講義を受講し、各自の幅広い知識・技術を広げる。 2. 職業意識や職域を広げ、就職につなげる。	2・通年	30	1	○				○			○	
○			卒業研究・創作	卒業制作ショー準備・自由研究 ショー企画・企業研究など	2・後期	150	5				○	○		○		
合計				20科目				1,170単位時間(39単位)								
総合計				35科目				2,280単位時間(76単位)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
単位の取得、出欠席状況、課題提出・試験などにより評価をうけ修了すること	1 学年の学期区分	前・後期
	1 学期の授業期間	15週
<p>(留意事項)</p> <p>1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。</p> <p>2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。</p>		